

変革期に来た透析医療 —明るい未来を築くために—

腎臓を守るために医療と再生医療の未来



再生医療による腎機能回復
10年以内に実用化も

新田 慢性腎臓病（CKD）は多くの場合、糖尿病や高血圧などの疾患によつて引き起ります。ですから予防には、血糖や血圧のコントロールが欠かせません。また、腎機能を止めるには、早期発見、早期治療の大切です。しかし、腎臓は、沈黙する臓器といわれるのですが、重症化すると肾管が詰まる。定期的検診が大切なのです。

CKDの患者さんは、腎臓移植による腎臓再生医療が多く、使われていますが少し注意が必要です。クレアチニン筋肉の腎臓比が10%以上になると腎機能が低下します。

腎臓病の専門家である東京女子医科大学医学部長の中元秀友氏が語り合つた。

様々な技術の進歩により、腎臓医療、透析医療に新たな展望が開けている。多くの患者に希望の光をもたらす最新医療について、腎臓医療の専門家である東京女子医科大学再生医療の専門家である慶應義塾大学医学部長として中元秀友氏の3氏が語り合つた。

腎臓・透析医療に新たな展望



市民公開講座のご案内 腎臓病と透析療法を身近に感じよう

【日時】：7月30日(日)
13:30~16:00(13:00開場)

【会場】：ベルサール新宿グランド

Tel: 03-60-0023 東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランダワー1F

【定員】：1,000人(先着順)

【参加費】：無料

【プログラム】：司会 埼玉医科大学総合診療内科 教授 中元秀友氏
東京女子医科大学医学部長 教授・講座主任 新田孝作氏

13:30~ 腎臓の病気理解しよう

13:50~ 腎臓が悪いといわれたらー生活上の注意ー

14:10~ 腎臓病の治療を一緒に考えよう

14:30~ 腎臓病の治療を一緒に考えよう

15:00~ 透析を理解しようー透析療法と腹膜透析ー

15:20~ 透析を理解しようー透析療法と腹膜透析ー

15:40~ 腎臓が悪い時の食事の注意

上野莉紗氏

*プログラムは予定であり一部変更となることがあります

【応募】：お名前・住所・電話番号・参加人数を記入し、提出ください。
方法

■応募先：〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 清洲会館6階

運営事務局 株式会社コンクリ内

■ホームページ：<http://www.congre.co.jp/62jsdt/>

■募集締切：7月21日(金)

治療受けながら社会参加 新たな技術に期待高まる



Interviewer
戸教子氏
フリーキャスター

日本では以前は急性腎炎からの慢性腎臓病（CKD）が多く、腎不全に至るケースが多かったのです。現在は減少しています。代わりに食生活の欧米化や高齢化の進展などによる糖尿病や高血圧、動脈硬化などが原因で腎不全が引き起こすケースが増えてきました。

放置するより命の危険も

慢性腎臓病患者

推定1300万人

—透析という言葉を耳にする機会が増えてきました。透析とはどん

な治療ですか。

一言で言うと、患者さんの腎不全を腎臓の機能を代替するための治療です。

—そもそも腎臓の機能とはなん

でしょう。

主に3つの機能があります。1つは腎の体外に排出する機能です。過剰な水分を排ぐたために質が代謝され、尿素は人体にとって有益ですが、これを尿液中から取り出し尿と一緒に排出します。2つ目は腎の機能を代替するための治療です。

—なぜ腎不全になってしまいます

でしょう。

日本では以前は急性腎炎からの慢性腎臓病（CKD）と診断されます。初期にはほとんど自覚症状はありませんが、放置すると尿素の排出量や水分量・電解質などの調節がうまくなりません。結果、尿毒症という状態を引き起します。尿毒症では意識障害や血中異常、体液の過剰、貧血などが生じたり脳や心臓の血管をはじめとする命が危険にさらされるなどもあり、また腎機能が悪化するにつれて尿や血液中の尿素濃度が高まります。日本ではCKD患者は300万人程度といわれています。3回の透析が必要な状況維持、血中濃度が体のバランスを必要とするホルモンの産生です。これらの機能が衰える状態が腎不全といいます。

一定の状態に保つこと。その機能が非常に精密で、血中に含まれる水分や、カリウムなどの様々な電解質は一定の濃度でコントロールされ、酸やアルカリの濃度を保つことで尿を7~4に保たれています。3回の透析が必要な状況維持、血中濃度が体のバランスを保つこと。これが腎機能を正常に保つための必須の条件です。

—なぜ腎不全になってしまいます

でしょう。

腎臓の炎症や腫瘍などにより改善する

ことがあります。

腎